

# あすなろ

第33号

発行 弘前大学教育学部同窓会  
鈴木 弘  
所在地 弘前市文京町1  
TEL 0172 (36) 2111 代表



## 教育学部の近況

教育学部長 昆 正博

今年は大震災への対応や国の予算の窮状からくる問題等多くの困難を抱えながらの一年でした。学生諸君と教職員の頑張り、同窓会のご支援によりどうにか頑張ってきました。そのなかで、最近の明るい話題をご報告します。

### ① 校舎改修

第一期工事、第二期工事が終了し三期工事が最終段階に入っています。来年度前期中にすべて完成すると思います。従来に比べてはるかに機能的になった教育学部の校舎をぜひご覧になってください。校舎の改修に関しては、もう一つうれしい知らせがありました。特別支援学校の校舎改修の予算が認められたことです。現在の建物を改修することになりますので、骨格は変わりません。狭いスペースですので、子供の安全を考えながら良い校舎を作りたいと思っています。

### ② 教員養成機能の充実

「質の高い教育を実現するために、教員養成機能の充実」のために、

平成二十四年度予算の中に約二千万円の予算が国から配分される予定です。

これは、教育委員会等との連携協力関係を強化しながら修士課程・学部段階における指導体制等のさらなる改善・充実を図るとともに、実践的指導力を有する教員を養成するための機能強化を目指した修士課程・学部段階の改革の推進に要する経費と附属学校における質の高い教育実習を提供する場として実習生の受け入れや地域の公立学校等への支援を行うセンターの機能の強化を図るとともに、大学等と連携した先導的な研究活動の推進、国際化に対応した人材育成の推進など、附属学校の機能強化の促進に要する経費です。これを、この一月に新たな協定を結ぶ予定の弘前市教育委員会を中心に地域と連携しながら実施していくための方策を策定しているところです。

これまでの教育学部の実績、教員養成学センターの研究成果を

じめとする各センターの成果、ラボプロジェクトの成果等を継承しながら新たな時代に対応できる教員養成に踏み出すことができればと念願しています。

附属四校園の連携も強化され、その評価も年々高まっています。弘前大学教育学部の総合力が生かされる時代になったと思います。私はこの三月で定年退職ですが、



## 『二期会』より多額の寄付金

報告旁々…  
教育学部同窓会会長 鈴木 弘

この一年、同窓会としては、例年に準じた活動以外は格別のこともできませんでしたが、「学部」や「学生」が順調にその活動や学習を展開していることは何よりのことと思います。

以下、報告旁々、二、三述べてみたいと思います。

### 「二期会」の皆様へ感謝

昨秋、教育学部二期会代表の木村清之助氏から「二期会は例年会場を開き、親睦を深めるなどしてきましたが、会員も高齢となり、今年度でその例会を終えることにしました。ついては、二期会で蓄えていた金銭を教育学部同窓会に寄付することをしました。」という思いがけないご連絡をいただきました。

加入者も減少し、財政的にも窮屈になってきている同窓会の現状を思い、私は、そのご厚意を有り

長年にわたりお世話になりましたみなさまに厚く御礼申し上げます。大学も附属学校も、在籍した子供たちや学生諸君が成長した後に、心の中の温かさを持って思い出させるような場であってほしいと思います。また、教職員にとつてもそのような場であってほしいと念願しています。

難くお受けすることにしました。そして、去る十一月二十九日、創立五十周年記念会館に於いて木村氏から、「二十一万四円」の大金を直接頂きました(写真)。有効に活用させていただきたいと思っております。

二期会の皆様へ心からのお礼を申し上げます。

### 学生を見つめたい

学部の教員も学生も学内にとどまらず、地域へその活動の場を広げ、いろいろと貢献したり、体験を通しての学習を積み重ねたりしております。そのことを、私たちはあまりよく把握、理解していません。いろいろな気が致します。いろいろな場で学生の活躍を耳にするとき、つい嬉しくなり、これらのことを会員の皆さんにもっと広く紹介したいと思うようになります。

た。そんな中から、今回は弘前市の学校適応指導教室の様子を紙面で紹介することにしました。ところで、昨秋、葛西事務局長と一緒に大学祭にも行って来ました。学生達は「あそびのつば」「一日幼稚園」「グラスハーブアンサンブル」など、それぞれの場で生き生きと、明るく活動していました。頼もしく思いました。

先生方は、三年生の父母を対象とした懇談会を開催していました。昆学部長のお計らいで私も出席させていただき「同窓会加入の願い」もしてきました。

学生や学部ともっと身近なものになりたいと願っております。

校舎改修完成時の同窓会からの祝いの表し方、校舎内に同窓会も使用できる小部屋の確保等については、さらに話を進めていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。



木村前会長から鈴木会長へ(2011.11.29)



### 弘前市学校適応指導教室での学部生による 不登校生サポート活動とその沿革と概要

附属教育実践総合センター教授 豊嶋 秋彦

平成九年秋、当時の小澤学部長が同窓会長の木村先生と協議する中で、教員学部学生に教育実習以外に児童生徒とふれあう体験を提  
供し、「実践的指導力」を育成する趣旨の「文部省フレンドシップ事業」に、弘前市学校適応指導教室で学生が不登校生を支援する活動を立ち上げ申請するのはどうかということになったと聞く。そこで、専門が最も近い豊嶋が指導に当たってほしいと要請された。木村先生からは折に触れ、学生のボランティア派遣を求められていたが、活動の性格が曖昧、ボランティアの研修機会がない等の理由で、言を左右していたが、この事業は免許法上の教職科目として実施し  
当方が指導の任に当たる等、性格規定が明確だったのでお引き受けした。こうして平成十年度に、現同窓会長、鈴木先生がチームを務めていた市適応指導教室で、初年度の活動が始まったのである。

この活動の枠組みは概ね次の通りである。三、四年生十数名から二十名前後が通年で、各自決まった曜日の午前中を空けて教室に赴き、支援活動を行う（近年は各曜日四、五名が支援に入っている）。さらに年二回の自然体験・社会体験行事は終日支援し、年二、三回の事例研究会にも全員が知恵を持ち寄る。  
学校で手を尽くしてなお不登校となってしまう通室生であるから、学生には専門的研修を積ませ、頻回の個別指導も必要、何よりも、

相手の不適応を強める人格特性の者は不適格といった問題を乗り越えるべく、後に着任した田名場准教授ともども、適性を見極めた学生選抜、不登校研究の最新知見を伝える事前指導、個別のスーパービジョンに注力してきた。さらに、先発の県総合学校教育センター適応指導教室の担当指導主事を客員教授にお迎えして関わっていた。だ  
き、吉崎助手にも毎週支援に参加する体制をとっている。  
活動のキーワードは「斜めの関係」と「肩をならべ共に行動する  
共行動」である。これを通して他者や対象との関係形成力を高めることを目指している。不登校の本質は学校での対人関係や学習対象との関係の障害だからである。



### 「弘前市学校適応指導教室」について

弘前市学校適応指導教室

教育指導員 田浦 眞一

フレンドシップ事業は全国で多彩な試みがなされてきたが、本学部の活動は他に類例がないとして全国紙に早い段階で紹介されたり、派遣学生が他県の教採面接で、「本  
当に学部学生が支援活動を自律的に展開できたのか？」と驚嘆されたり、教員採用率も一貫して高い等、様々な嬉しいエピソードを積みあげている。

いろいろな要因で学校に行けない児童・生徒に対して、教育相談や学習活動、体験学習、集団活動を通して、自立心や社会性を育てる等の適応指導を進め、学校復帰を目指した支援を行う。の方針のもと、5教科の学習や体育活動、創作活動等一日三時間の活動の他、野外行事や炊事遠足、社会見学、体験学習、調理実習、宿泊学習等の活動を年間を通して実施しています。

様々な要因で登校しなくても出  
来ない状況にある児童・生徒の通室生が増えてきており、教育指導  
員だけでは個別指導に手が回らない状況になってきているのが現状です。  
不登校を続けてはいるが、高校進学を希望している生徒や保護者の希望や要望等に添うべく現在活動してはいますが、支援学生さんの力が今では必要不可欠のものになっていきます。  
フレンドシップ事業に参加の学生さんは授業の関係で午前中の参加の人が大半ですが、学生さんからの支援や働きかけが児童・生徒たちにとってプラス面が非常に大きいと感じています。学生さんの



自然体験学習にて

主な活動として、①一緒に活動する創作活動や体験学習等による支援、②人間関係や個別指導を通してその子に合った支援や援助、③教科指導では一人一人の進度に合わせた支援、④行事活動を通して自立心や集団適応能力、生活意欲を高めるための多岐にわたる支援活動等、学校には行けなくても、心の居場所になるような心の安らぎを求める子どもたちにとって、年齢的にも近いフレンドシップの学生さんには非常に期待していると同時に、適応指導教室としても非常に助かっており、学生さんが来るのを楽しみに待っている児童・生徒の毎日です。  
将来、教員を目指すためにもこの様な様々な体験や実践が現場に立ったときに大きな力の源になると信じていると同時に、弘前大学、支援学生の皆さんには非常に感謝しております。ありがとうございます。  
今後この事業が継続してくれることを切に願っております。  
弘前市総合学習センターで学校不適応の小中学生と一緒に勉強をしたり、体を動かしたり、遊んだりしている。一緒に時間を過ごし、そのままの「彼ら」を受け止めていくことで、通室生たちが心のエネルギーを回復するための手伝いをしていく。  
私自身は「学校」での生活を楽しんできた。そんな「学校」時代に学校に来られなくなった友達、来ても学級まで来られない友達があった。理由は様々ある。ただ学級集団に自分の居場所を見いだせずにいたことは共通していたのかもしれない。保健室や外で会ったときは、楽しそうに笑っていたからだ。  
教育学部で学んでいく中で、学校教育だけではない「教育の方法」を知った。適応指導教室での活動もその一つだ。「学校」の機能は持っているが、子どもが主体となる場所という印象を持っている。少しずつ、自分のペースで「自分らしさ」を出していける場所が適応指導教室なのではないかと思っ  
ている。  
適応指導教室で活動をしてきて、学校に復帰した子、自分から人と関わるようになった子、集団から離れ個別指導を選んだ子と様々いた。私自身が、一人でも多くの子のエネルギーを充電できるように居場所でありたい。

### 適応指導教室と子どもたち

学校教育教員養成課程  
小学校専攻 四年

平根 江梨



# キーワードは“愛着障害”

弘前愛成園園長 佐々木 健

(昭和49年 中学校教員養成課程 卒)

三十七年の教員生活のあと、縁があつて児童養護施設に再就職。

同じ子どもが相手の仕事でも、「福祉」の立場で全く勉強のし直しの日々を過ごしています。

”児童養護施設“は概ね2歳以上の、保護者のない子ども、虐待されている子ども、環境上保護を必要とする子ども等を家庭に代わって養育する施設です。

施設について、自分なりに分かっていたつもりでも、いざ中に入り子ども達の現実を目の前にしてみると、今まで持っていた”寄宿舎“的なイメージは崩壊。

現実、つまり「虐待」や「育児放棄」等の被害にあつた子ども達の実態を知るにつけ、「虐待」「ネグレクト」という言葉から受ける「かわいそうな子ども達」という安易な感情しかなかった自分を恥じることになりました。

ちなみに「虐待」には主に次のような種類があります。

- ・身体的虐待
- ・ネグレクト (育児放棄)
- ・心理的虐待
- ・性的虐待 他

虐待を受けた子どもは親と子の間に芽生える信頼関係を築けず育ちます。虐待は対人的社会的能力の欠落の原因となるだけでなく、未発達な子どもの脳に器質的な発達障害をもたらし、心身のあらゆる

る面の特徴的な発達の障害を生じる原因となります。

具体的には、親からの愛情不足から成長ホルモンが抑制され年齢相応な身体的発達を示さないことがあります。親からのスキンシップに不慣れたため体を触られるのを嫌います。

常に否定的に育てられるので好奇心や自発性が発達せず「考えること」が苦手で、自分の感情を調整する能力が未発達です。

人間関係の基礎となる親との絆を築けず、人を信頼できません。「自分で自分を守る」という意識から、自分で周囲を支配しようとしてきます。

恐怖感と不安感を隠し持ち、その現れとして激怒反応を起こしやすく、自分を愛そう(支配しよう)

とする親や先生には拒絶反応や攻撃性を見せる反面、自分に直接関係のない人にはやたら愛想をふりまきます。

常に低い評価を受けて育つため「虐待原因が自分にあり、愛される価値がない」と、自尊心が育ちません。自分に自信がなく、「自分は無力で悪い人間だ」という罪の意識や自己否定の気持ちを抱いて育ちます。

これを「愛着障害」と言います。このように「かわいそう」ではすまされない子どもの厳しい現実があります。

児童養護施設では、ただ子ども達の衣食住の生活の世話をしているだけではありません。子ども一人ひとりの発達にに応じて、必要な世話を適切に行うことで愛着の傷を克服し、安定した愛着スタイルを築けるように職員がケースワーカーとして処遇に努めています。



2011.11.12 りんご公園

「虐待原因が自分にあり、愛される価値がない」と、自尊心が育ちません。自分に自信がなく、「自分は無力で悪い人間だ」という罪の意識や自己否定の気持ちを抱いて育ちます。

これを「愛着障害」と言います。このように「かわいそう」ではすまされない子ども達の厳しい現実があります。

児童養護施設では、ただ子ども達の衣食住の生活の世話をしているだけではありません。子ども一人ひとりの発達にに応じて、必要な世話を適切に行うことで愛着の傷を克服し、安定した愛着スタイルを築けるように職員がケースワーカーとして処遇に努めています。

共に生活をしながら、「自分の気持ち」を認めてもらえらる」「自分の悪いところも良いところも全部受け止めて大事にしてくれている」と子ども達の自己肯定感を育むべく、粘り強く愛情を一から注いでいく養育のプロとしての姿がそこにはあります。

是非、教育学部学生諸君も含め、子どもに係わるあらゆる人に、ひとりでも多くの人に、「愛着障害」について知ってもらい、考えてもらいたいと思います。

平成二十三年度

## 弘前大学教育学部・同窓会懇談会

十二月七日(水) 午後四時より

弘前大学五十周年記念会館二階岩木ホールにて、平成二十三年度の教育学部と同窓会との懇談会が開催されました。学部からは昆学部長はじめ教官・職員二十二名が、同窓会からは鈴木会長以下十六名が出席しました。

昆学部長からは今年度で退官する旨の挨拶がありました。鈴木会長からは同窓会の二期生から多額の寄付があつたことの報告とクラブ活動の発表の場や大学の総合文化祭等にできるだけ足を運び、学生の活動を紹介していきたいとの挨拶がありました。

その後、担当の先生方から学部の現況等について報告があり、その後質疑応答がなされました。

- (一) 三期にわたる学部校舎の改修が二十四年度には終了の予定であり、その中に資料館が新設されることについて報告
- (二) 大学院教育研究科の現況について報告
- (三) 学生の就職状況は非常に厳しい状況にあり、支援に力を注いでいる
- (四) 小学校の学級定員の変更を検討している
- (五) 質疑応答

午後六時からはスコラム場所を移動し、懇親会が盛大に行われました。



平成22年度決算

○収入の部 (22.4.1~23.3.31)

Table with 4 columns: 収入の部, 22年度予算, 22年度決算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 繰入金, 雑収入, 計.

○支出の部

Table with 4 columns: 支出の部, 22年度予算, 22年度決算, 備考. Rows include 総会費, 評議員会費, 支部活動費, 通信費, 就職対策費, 教育開発活性化経費, 特別対策経費, 社会教育主事講習経費, 事務経費, 会報印刷費, 全学同窓会費, 事務局費, 雑費, 計.

2,171,893(円) - 1,972,449(円) = 199,444(円)
残額199,444円は次年度へ繰り越します。

平成23年度予算

○収入の部 (23.4.1~24.3.31)

Table with 4 columns: 収入の部, 22年度予算, 23年度予算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 繰入金, 雑収入, 計.

○支出の部

Table with 4 columns: 支出の部, 22年度予算, 23年度予算, 備考. Rows include 総会費, 評議員会費, 支部活動費, 通信費, 就職対策費, 教育開発活性化経費, 特別対策経費, 社会教育主事講習経費, 事務経費, 会報印刷費, 全学同窓会費, 事務局費, 雑費, 計.

平成二十三年度 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告

平成二十三年年度の定時総会は平成二十三年五月二十八日(土)午後二時から弘前パークホテルにおいて開催されました。会長以下二十二名の役員(会長、副会長、監事、各支部長、支部評議員、常任委員)が出席しました。

まず会長挨拶があり、その中で全学同窓会理事会で、大学側から東日本大震災で百名余の学生が被災し、何らかの支援をする旨の話があったことが紹介されました。その後、事務局から提案された平成二十二年度の庶務報告、会計監査報告や決算報告、会則、平成二十三年度の事業計画案、そして予算案と審議が行われました。その中でこの数年恒常的に推移してい

る新会員の加入率が三十パーセントを切っていることから、加入の呼びかけの工夫、会費納入の時期(現在は入学時)の変更や会費の額の変更などが話し合われました。経費を削ることも検討すべきだとの意見もありました。また、全学の後援会との関係についても話し合われました。役員の改選は平成二十四年度の総会時に行われますので今回はありません。尚副会長一名が空席になっております。総会終了後、同じパークホテルにて昆教育学部部長、長澤事務長をお迎えし、学部長の挨拶の後、廣野十和田・三沢・上北支部長の乾杯の音頭で懇親会が開催されました。同窓会のホームページが弘前大学のホームページの中に作られております。過去の会報等が閲覧可能です。ご意見等ありましたら事務局までご連絡ください。

事業計画

- 1, 同窓会費納入依頼
2, 平成22年度会計監査会、事務局会議
3, 平成23年度総会
4, 同窓会・教育学部懇談会
5, 同窓会報「あすなろ33号」発行
6, 弘前大学卒業式・祝賀会
7, その他

特別会計基金

<みちのく銀行定期預金関係>
6,640,492 + 10,654 = 6,651,146(円)(利息)
6,651,146 - 800,000 = 5,851,146(円)
(平成22年度予算へ繰り入れ)
<青森銀行定期預金関係>
6,026,124 + 2,893 = 6,029,017(円)(利息)
6,029,017 - 700,000 = 5,329,017(円)
(平成23年度予算へ繰り入れ)

平成22年度 庶務報告

- 1, 22年3月 同窓会費納入依頼
2, 22年5月30日 平成21年度会計監査会、事務局会議
3, 22年6月5日 平成22年度総会
4, 22年12月2日 同窓会・教育学部懇談会
5, 23年3月4日 同窓会報「あすなろ32号」発行
6, 23年3月23日 弘前大学卒業式・祝賀会

平成二十三年度役員

- 1, 支部長 弘前・中郡支部 笹森 義男(弘前市)
2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄(藤崎町)
3, 五所川原・北郡支部 田中 高志(斗川小)
4, つがる・西郡支部 内山 博文(森田小)
5, 青森・東郡支部 奈良 年永(青森市)
6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(八戸市)
7, 三沢・十和田・上北郡支部 廣野 雅美(野辺地町)
8, むつ・下北郡支部 宮木 正信(下北教育事務所)
9, 弘前大学教育学部支部 葛西 敦子(教育学部)
10, 評議員 弘前・中郡支部 松田千代治(弘前市)
前田 幸子(弘前市)
伊藤 學(弘前市)
高木 邦雄(弘前市)
小山 順造(弘前市)
秋田・豊(弘前市)
栗林 欣一(平川市)
花田 幸三(弘前市)
稲葉 正樹(平川市教委)
山内 孝行(上十川小)
11, 名譽会長 崑 正博(学部長)
齋藤 善三(弘前市)
木村清之助(弘前市)
鈴木 弘(弘前市)
奈良 年永(青森市)
佐々木 誠(八戸市)
相馬 正栄(平川市)
工藤 睦男(弘前市)
岡元 淳一(弘前市)
笠島 明(青森市)
12, 副会長 吉田 秀一(青森市)
西館 暁子(青森市)
須藤 努(青森市)
相沢 正雄(青森市)
齋藤 キヨ(青森市)
13, 副会長 高橋 信夫(八戸市)
齋藤 正栄(五戸町)
築瀬真知雄(八戸市)
尾崎 官一(八戸小)
千葉 力久(八戸市)
佐々木 修(八戸市)
乙山 廣政(八戸市)
14, 副会長 岩田 真雄(十和田市)
梅田 真規(六戸町)
山村 義一(三沢市)
永瀬 俊明(十和田市)
馬場せつ子(三沢市)
川村 正(三沢市)
福沢 周治(十和田市)
樋口 博昭(ちとせ小)
15, 顧問 屋敷 政勝(つがる市)
高橋 範隆(向陽小)
野崎 正人(つがる市)
木村 道浩(森田小)
尾崎 修一(修道小)
16, 常任委員 葛西 恒雄(弘前市)
佐々木 健(弘前市)
角野 君代(高杉小)
對馬 浩二(尾上小)